



『感染症に備える医療・公衆衛生』

コロナと自治体 2

長友 薫輝（佛教大学社会福祉学部）

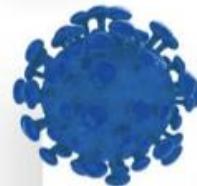
NAGATOMO MASATERU



感染症に備える 医療・公衆衛生

コロナと自治体 2

長友薰輝 編著



いまこそ公的医療費抑制策の転換、
公衆衛生体制の強化を図る必要がある

政府は医療供給体制や公衆衛生体制を整備せず、抑制を主眼とした政策を継続してきた。その結果、コロナ感染拡大に各地域が対応できない状況となる。感染症に備えるには、公的医療費抑制策の転換、公衆衛生体制の強化を図る必要がある。本書はこの問題意識のもと、医療・公衆衛生政策の変遷、コロナ禍での各地域の病院、保健所などの現場の対応と課題を紹介し、医療・公衆衛生体制の改善を提言する。

コロナ禍は、ほぼ「人災」

- ①感染の波は何度も来る（歴史から学ぶ）
- ②感染をコントロールするのが政府の役割。いつの時代も。
- ③現場の努力、人々の自己責任、助け合いに依存している状態。
- ④「自宅療養」というあいまいな用語規定、数字の操作などが散見。

感染症に備える医療・公衆衛生

- ①コロナ禍（ほぼ人災）にもかかわらず、コロナ前の政策を継続または加速。なぜ？
- ②コロナ禍を援用して、「惨事便乗型」の対応
- ③非公表で非科学的なデータを根拠に政策展開



公的医療費抑制の転換、公衆衛生体制の強化へ

- ①政府は医療供給体制や公衆衛生体制を整備せず、抑制を主眼とした政策を継続してきた。
- ②その結果、コロナ感染拡大に各地域が対応できない状況となる。
- ③感染症に備えるには、公的医療費抑制策の転換、公衆衛生体制の強化を図る必要がある。



本書の目的

本書はこの問題意識のもと・・・

医療・公衆衛生政策の変遷、コロナ禍での各地域の病院、介護事業所、保健所などの対応と課題を紹介し、医療・公衆衛生体制の改善を提言するもの。

『感染症に備える医療・公衆衛生』コロナと自治体2 の内容

- 1 コロナ禍で明らかになった地域医療の危機(長友薰輝)
- 2 地域住民のいのちを守る砦としての自治体病院に
千葉県からの報告・新型コロナウイルス対応での自治体病院の役割発揮と課題も明らかに(長平 弘)
- 3 新型コロナで鮮明になった医療・介護の現実(鈴木ひとみ)
- 4 新型コロナと日本の公衆衛生—その特徴と課題(松田亮三)
- 5 保健所の統廃合がもたらした現実と今後の課題(亀岡照子)
- 6 コロナ禍で脆弱な県の人員体制が浮き彫りに(谷田 誠)



感染症に備える 医療・公衆衛生

コロナと自治体 2

長友薰輝 編著



いまこそ公的医療費抑制策の転換、
公衆衛生体制の強化を図る必要がある

政府は医療供給体制や公衆衛生体制を整備せず、抑制を主眼とした政策を継続してきた。その結果、コロナ感染拡大に各地域が対応できない状況となる。感染症に備えるには、公的医療費抑制策の転換、公衆衛生体制の強化を図る必要がある。本書はこの問題意識のもと、医療・公衆衛生政策の変遷、コロナ禍での各地域の病院、保健所などの現場の対応と課題を紹介し、医療・公衆衛生体制の改善を提言する。